

引用・参考文献

- 安藤広子, 塚原正人, 溝口満子. (2002). 遺伝看護の現状と歴史的概観. 安藤広子, 遺伝看護 (pp8-10, 東京: 医歯薬出版株式会社).
- 青木美紀子. (2004). 羊水検査を受けた女性が求める医療者のかかわり方. 日本遺伝看護学会誌, 2(1), 10-16.
- 荒木奈緒. (2006). 羊水検査を受けるか否かに関する妊婦の意思決定プロセス. 日本助産学会誌, 20(1), 89-98.
- Antenatal Results Choices (ARC).
<http://www.arc-uk.org/for-professionals/training-and-events>
- EUROCAT. (2010), EUROCAT Special Report: Prenatal Screening Policies in Europe 2010", EUROCAT Central Registry, University of Ulster.
<http://www.eurocat-network.eu/content/Special-Report-Prenatal-Screening-Policies.pdf>
- Garel, A., Gosme-Seguret, M., Kaminski, M., & Cuttini, M. (2002). Ethical decision-making in prenatal diagnosis and termination of pregnancy: a qualitative survey among physicians and midwives. Prenat Diagn, 2(9), 811-7.
- Genesis GENETICS . <http://www.genesis-serenity.com/>
- 服部有希. (2011). フランス 生命倫理関連法の制定: 外国の立法. 国立国会図書館調査及び立法考査局.
- 一般財団法人日本助産評価機構. (2015). 助産師個人認証制度: <https://jime2007.org/>
- 金井誠. (2016). 新型出生前診断 (NIPT) とは. 助産雑誌, 70(3), 178-211.
- Khalid, L., Prince, SM., Barrow, M. (1994). The attitudes of midwives to maternal serum screening for Down's syndrome. Public Health, Mar, 108(2), 131-136.
- 久具宏司. (2014). 出生前診断における遺伝カウンセリングおよび支援体制に関する研究: 平成 25 年度研究報告書. 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)
- LabCorp ジャパン合同会社. (2016). 出生前検査. クアトロテスト™. 患者向け情報.
<http://www.labcorp.co.jp/general/quattro01-faq.html>

- LabCorp ジャパン合同会社. (2016). 母体血清マーカー クアトロテスト™医療関係者用資料. http://www.labcorp.co.jp/dl/01/quatro_medical.pdf
- 御手洗幸子. (2016). 遺伝診療部門をもたない施設の助産師の実践. 助産雑誌, 70(3), 190-195.
- 守田美奈子, 安藤広子, 溝口満子, 有森直子, 中込さと子, 森明子, 堀内成子. (2006). 一般看護職を対象とする遺伝看護教育プログラムの実施と評価. 日本遺伝看護学会誌, 4(1), 1-15.
- 無認定の出生前診断. (2016). 毎日新聞.
<http://mainichi.jp/articles/20161103/k00/00m/040/077000c>
- 村上京子. (2011). 看護食の遺伝医療への関わりとケアに伴う困難感-山口県における周産期・小児領域看護職の現状-. 日本遺伝看護学会誌, 10(1), 61-69.
- 中込さと子, 浅野浩子. (2016). 助産師は出生前検査にどこまでかかわれるか. 助産雑誌, 70(3), 174-177.
- 名取道也, 鈴森伸広. (2010). 19. 羊水検査・絨毛検査・母体血清マーカー検査. 日本産科婦人科学会雑誌, 62(3), N17-22.
- National Health Services. (2016). Screening tests for you and your baby
https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/512108/STFYAYB_April_2016_single_pages.pdf
- 日本医学会. (2011). 「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」.
<http://jams.med.or.jp/guideline/genetics-diagnosis.pdf>
- 日本医師会, 日本医学会, 日本産婦人科学会, 日本産婦人科医会, 日本人対遺伝学会(2016)
「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」についての共同声明.
http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20161102_1.pdf
- 日本医学会臨床部会運営委員会. (2016). 母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査. 臨床研究施設について.
http://jams.med.or.jp/rinshobukai_ghs/facilities.html
- 三重野雄太郎. (2015). 出生前診断と着床前診断をめぐる近時のドイツの動向. 年報医事法学, 30, 55-62, 日本評論社.
- 日本産科婦人科学会. (2014). 胎児障害・形態異常に関する相談. (pp81-102) 産婦人科診療ガイドライン産科編 2014.

日本産科婦人科学会. (2013). 出生前に行われる遺伝学的検査及び診断に関する見解.

http://www.jsog.or.jp/ethic/H25_6_shusseimae-idengakutekikensa.html

認定遺伝カウンセラー制度委員会. (2016). 認定遺伝カウンセラー制度について.

<http://plaza.umin.ac.jp/~GC/About.html>.

沼部 博直,藤井 由希子,梁 徳生,村上 裕美,小杉 眞司,福嶋 義光. (2011).中華人民共和国における遺伝子疾患にかかわる生殖政策.日本遺伝看護学会誌, (9)2, 26-31.

岡美雪, 村上良子. (2013). 出生前診断で胎児異常と指摘された妊婦との関わりで生じた陰性感情. 東京都保健医療学会誌, 142-143.

小笹由香. (2016). 出生前検査のきほんの「き」 Q&A. 助産雑誌, 70(3), 196-197, 医学書院.

Public Health England. (PHE). (2016).Continuing Professional Development for screening: [http://cpd.screening.nhs.uk/fetal anomaly](http://cpd.screening.nhs.uk/fetal%20anomaly)

臨床遺伝専門医制度委員会(2017). 全国臨床遺伝専門医・指導医・指導責任医一覧:<http://jbmj.jp/list/senmon.html>.

Rothenberg, H, Thomson, E. (1994) WOMEN&PRENATAL TESTING: Facing the Challenge of Genetic Technology. 日本アクセルシュプリンガー出版株式会社. 211.

Shenaz, A., Louise, D., Phillis, C. (2013). Midwives' perceptions of their role as facilitators of informed choice in antenatal screening: Midwifery. 29(7), 745-750.

斎藤有紀子(1999)女性・胎児・障害者の対立を越えて、特集出生前診断と助産婦、助産婦雑誌, 53(5), 16-21, 医学書院.

産前診断技術管理办法(2002). http://www.law-lib.com/law/law_view.asp?id=42544

佐々木愛子(2015). 出生前検査に関する遺伝相談 現状整理出生前検査の現状. 日本医事新報, 4768, 25-30.

専門看護分野特定について(2016). 日本看護協会.

<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/whatsnew>

佐藤孝道(1999). 出生前診断. いのちの品質管理への警鐘(pp.27), 有斐閣選書.

鈴木江三子. (2004). 超音波診断を含む妊婦健診の導入と普及要因. 川崎医療福祉学会誌, 14(1), 59-70.

柘植あづみ,菅野摂子,石黒眞里. (2009). 羊水検査の経験. 妊娠—あなたの妊娠と出生前検査の経験をおしえてください.(pp.208-238),京都:洛北出版.

- 柘植あづみ, 二階堂祐子(2014). 諸外国の出生前診断の状況とその背景、特集出生前診断を考える. 日本医学雑誌, 143(6), 1166-1170.
- 辻恵子. (2008). 出生前検査に関する決定のプロセスを女性と共有すること, 助産雑誌, 62(12), 1142-1147, 医学書院.
- 辻恵子, 横山寛子, 森屋宏美, 溝口満子. (2014). 看護基礎教育課程における遺伝学・遺伝看護学教育の実態調査. 日本遺伝看護学会誌 12(2), 54-59.
- 中华人民共和国母婴保健法实施办法. (2001).
http://www.lawlib.com/law/law_view.asp?id=15367
- 山口和人. (2009). ドイツ 遺伝子診断法の制定, 外国の立法. 国立国会図書館調査及び立法考査局.
- 安井一徳. (2013). 諸外国における出生前診断・着床前診断に対する法的規制について: 調査と情報: 国立国会図書館. 779
- 横山寛子, 溝口満子, 和田恵子, 守田美奈子, 安藤広子. (2001). 看護職の「遺伝」との関わりとその認識現状. 臨床遺伝研究, 22, 25-36.
- 吉村泰典. (2010). 生殖医療の未来学: 診断と治療社.
- 渡部麻衣子. (2006). 出生前診断～イギリスからのレポート～, 市民科学